

「河野扶展 向うからやってくるもの一作意を捨てて」



赤の浸食



気流

1 開催趣旨

「私の作品にはシナリオがない」「画面からいかに作意を取り除くかが、恐らく私の生涯をかけての課題となるだろう」「茶室に懸けて少しの違和感もない油絵を描きたい」

京都第三高等学校から東京帝国大学で数学を学び、数学の教師をしながら生涯を通じて絵を描き続けた河野扶は、1980年代後半、70歳を超えた頃に特異な境地にたどり着きます。

キャンバスに絵具を塗り、乾いては削り、再び塗っては削る繰返しのなかで、画面から作意が抜け落ち、自分の意志ではなく、他の何者かの指示で描かされていると感じる時があると語る作家は、晩年になりこれまで誰も描いたことのない抽象絵画を創り出しました。

第8回「私の愛する一点展」(2008年)に河野扶作品が出品されたことが契機となり、2013年に当館で小規模な展覧会を開催しましたが、今回ご遺族及び関係者のご理解を得て、初期から晩年までの全画業を通覧する展覧会を開催します。

戦後の日本洋画界は、西洋から怒濤の如く抽象様式が流入しましたが、そうした外来様式としての抽象の影響を経て、日本人の体質に根差した抽象に至った河野扶芸術を、日本の戦後美術史に位置づけようと試みるものです。

2 会期

令和3年8月8日(日)～10月17日(日)

9:30～17:00(最終入館16:30) ※休館日月曜日(祝日の場合は翌火曜日)

ナイトミュージアム開催日 8/22(日) 9/21(火)は20:00まで延長開館

3 入館料

800円(団体700円) ナイトミュージアム開催日は 17:00以降無料

4 会場

東御市梅野記念絵画館大展示室

5 主催

東御市 東御市梅野記念絵画館・ふれあい館

6 展示の概要

- (1) 具象の時代～油彩9点
- (2) 独立出品時代～8点
- (3) 渡欧、具象回帰～8点
- (4) 壁こねを下塗りにした具象～9点
- (5) 作意が抜け落ちていく時代～30点

7 関連イベント(予定)

・オープニング講演

8月8日(日)13:30～

講師:すどう美術館 館長 須藤一郎 氏

1936年東京生まれ。東京大学法学部卒。サラリーマンとして勤務しながら現代美術の蒐集をする。

1990年より町田の自宅を開放し、妻・紀子と共に「すどう美術館」を開館(後に小田原へ移転)。同館館長。

現在は、ギャラリー等での展示やアーティスト支援活動などを行っている。



作品63-J



壁の曼陀羅4



赤い屋根(シャルトル水辺)

お問い合わせ 東御市梅野記念絵画館・ふれあい館

〒389-0406 東御市八重原935-1

TEL0268-61-6161 fax0268-61-6162 Email:umenokinen@ueda.ne.jp

○展示内容について館長兼担当学芸員大竹永明(おおたけ・ながあき)

○広報・取材・画像提供等について学芸員日向大季(ひゅうが・だいき)